

日本音楽集団 渡欧記念演奏会

Ensemble Nipponia The 17th Regular Concert '72



朝日講堂

9月6日(水) PM6:30

ごあいさつ

私たちが旗を掲げてから、早いもので、もう九年目になります。内に籠りがちな邦楽社会を、明快に開放的に、老いたがる邦楽人の技と心に若々しさをというのが、その旗の一つの印しでした。私たちはそのために多くの未知の試行を繰返し、今では背負いきれぬ程の国内活動を日常的に行なうようになりました。

一方、私たちの旗には、絶えて西に流れ込むことのなかった東の香り、その忘れられた価値を、力一杯吹き送ってみたいという願いも印されていました。だが私たちの古典の技と心を、世界に普遍する新しい皮袋の中に満たすには長い時間がやはり必要だったようです。私たちのよき理解者であった故エルネスト・アンセルメが、残念にも亡くなる直前私たちにいったことば——二、三年うんと腕を磨いて、ぜひヨーロッパへやってこい——に応えるにも一、二年の遅れをとりました。

この、四年にも達する長い準備期間を経て、いま、ふたいろの旗をなびかせた私たちのはばたきの日がきました。九年前の青年たちは、この渡欧公演に関する外務省、及び、三年来の文化庁を通しての全日本人の強い期待と、きびしい目を充分に知っているつもりです。

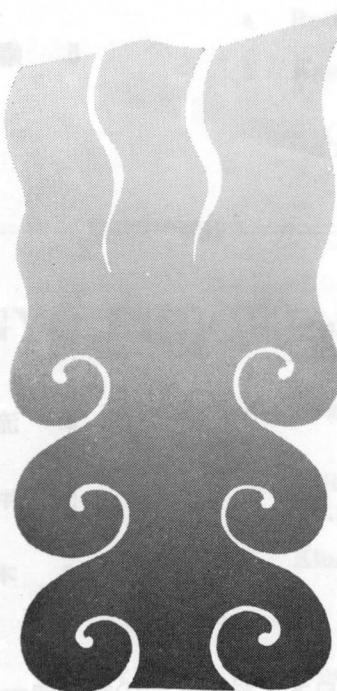
曲目をどうするかは難かしいことでした。新しい日本の音楽を生みだす作業は、混とんたる社会事情と同じく、半ば未明のままの現状といえましょう。その薄くらがりの中から、ある程度の網羅を果しながら、私たち集団の強い意図をも反映すべきでありました。私たちの過去八年の結果として、ふたいろの旗色は鮮やかでなければなりません。

今日は、そうして選ばれた曲目の中から、私たちとしては大編成で演奏される四つの作品を集中しておきかせすることになりました。旬日を待たずに旅立つ私たちのために、何らかの御助言をお寄せ下さいますよう。

1972年9月6日

日本音楽集団

日本音楽集団 渡欧記念演奏会



主催
後援

日本音楽集団
外務省・文化庁・朝日新聞社

— 曲目と出演者 —

1. 子供のための組曲 ／長沢 勝俊

第1章 軽やかにのびのびと

第4章 しづかに子守唄風に

第2章 ゆったりと歌う感じで

第5章 激しく律動的に

第3章 遊戯唄風におどけて

2. 古代舞曲によるパラフレーズ ／三木 稔

1. 前 奏 曲

4. 誅 歌 (るいか)

2. 相 聞 (そうもん)

5. 嬉 歌 (かがい)

3. 田 舞 (たのまい)

————— 休 憩 —————

3. 組曲「人形風土記」／長沢 勝俊

1. ニ ポ ポ

4. 流 し び な

2. こ け し

5. キ ジ 馬

3. のろま人形

6. 木 う そ

4. 凸 —三群と三曲と日本太鼓のための協奏曲— ／三木 稔

〔能管・篠笛〕望月太八 〔尺八〕宮田耕八朗・坂田宏聰・三橋保源 〔三絃〕杉浦弘和

〔琵琶〕山田美喜子・半田綾子 〔箏・三絃〕坂井とし子 〔箏〕白根きぬ子 〔箏・二十絃箏〕野坂恵子 〔十七絃箏〕宮本幸子 〔打楽器〕清水義矩・尾崎太一・高橋明邦

〔ソプラノ〕増田睦実 〔指揮〕田村拓男

— PROGRAMME & PLAYERS —

1. SUITE FOR CHILDREN / Katsutoshi NAGASAWA

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. Vivace | 4. Larghetto |
| 2. Andante cantabile | 5. Allegro vivace |
| 3. Scherzando | |

2. PARAPHRASE AFTER ANCIENT JAPANESE MUSIC / Minoru MIKI

- | | |
|------------|----------|
| 1. Prelude | 4. Ruika |
| 2. Sōmon | 5. Kagai |
| 3. Tanomai | |

Intermission

3. SUITE: NINGYŌ FUDOKI / Katsutoshi NAGASAWA

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. Nipopo | 4. Nagashibina |
| 2. Kokeshi | 5. Kijiuma |
| 3. Noromaningyō | 6. Kiuso |

4. CONVEXITY— Concerto for three groups of “Sankyoku”

and a Japanese drum / Minoru MIKI

[Nk·Sb] MOCHIZUKI [Sh] MIYATA · SAKATA · MITSUHASHI [Sg] SUGIURA
[Bw] YAMADA · HANADA [13—Kt · Sg] SAKAI [13—K] SHIRONE [13—Kt ·
20—Kt] NOSAKA [17—Kt] MIYAMOTO [Perc] SHIMIZU · OZAKI · TAKA
HASHI [Sop] MASUDA [Cond] TAMURA

曲目解説

小宮多美江

渡欧記念の今夜えらばれた四つの曲は、ヨーロッパでの演奏会の主要なプログラムでもある。日本音楽集団を少しでも知っている皆さんなら、誰でも納得のいく一曲一曲であろうし、また今夜はじめてきく人にとっても、この集団の特性を余すところなく知ることのできる最適の曲であろう。

それは、四曲が集団の八年の歴史の三つの時期——初期、中期、最近——全部にわたるということや、集団の第一の特色である大編成の曲だということばかりでなく、これらのひとつひとつが、まさに集団の運動の中で生まれ、そして運動のあらたなエネルギーを生んできた作品だからである。

座付作者ともいるべき長沢勝俊、三木稔ご両人のほとんど対照的な音楽的性格については、これからおききになればわかることだし、ほぼ評価の定まったこれらの曲についての解説も最低限にとどめておきたい。

「子供のための組曲」は、1964年11月の集団結成第1回定期演奏会で初演された。全5章のうち、第2章は尺八3本のみ、第4章は三絃と打楽器なしだがあとは尺八3、三絃1、琵琶1、箏2十七絃箏1、打楽器2、計10人の全合奏。

人形劇団ブークでの活動(1948年～)以来、子供と人形には縁の深い長沢勝俊が、ここに描きだした子供の世界は、大人の郷愁ではない、まさに

現代に生きる子供の世界である。

「古代舞曲によるパラフレーズ」は、1966年10月の第4回定期演奏会で初演された。

器楽合奏による前奏曲に続く相間——万葉の恋の歌——は、ソプラノのヴォーカリーズの入る抒情的楽章、田舞は、田の神の楽天的な舞いをえがく。詠歌は死者を葬う歌で2管の尺八と箏群。唄歌は歌垣ともいい、男女が集まって呼び合う群舞。

この曲は、三木稔と日本音楽集団とをはっきり結びつけた最初の作品として印象が深い。

「人形風土記」は同じく第4回定期演奏会で初演された長沢勝俊の作品。

1)ニポボはアイヌの木彫りの人形で全合奏、2)こけしは篠笛と2本の尺八、3)のろま人形はかしらをかたどった佐渡の首人形で、太棹と鼓、太鼓
4)流しひなは篠笛と箏群、5)キジ馬は大分の白木のキジ車、尺八2と桶胴、6)木うそは太宰府天満のうそ替え、全合奏で。

これは、人形が人形でなく、生きて人間の心を伝える、そんな音楽である。

「凸」は、1971年第13回定期演奏会で初演。コロムビアの「日本音楽集団による三木稔の音楽」への委嘱、初演は前年。

三群の三曲とは、舞台左に尺八高音・十三絃箏・太棹三絃、中に能管・二十絃箏・琵琶、右に細棹・三絃・十七絃箏・尺八低音という組合せを配し、新しい合奏形態を打ち出したもの。曲は二部に分かれ、笛、箏、撓といった楽器の類別をうき立たせたのち群から群へ旋律を受け渡していく第一部から、第二部では太鼓を中心に阿波踊りのリズムを荘大に展開していく。終り近くにきかれるカデンツアは、ヨーロッパ公演においては二十絃箏(野坂恵子)か、三絃(杉浦弘和)のどちらかが、それぞれ自作のものを弾くことになっている。

日本音楽集団の歴史の中で、以上の曲がどのように位置づけられるか、私は、とくにそれを演奏家との関係において考えてみたいと思う。

16回の定期演奏会をふり返って、その特徴として強く思うのは、実に丹念に再演を重ねているということである。

これは、長沢、三木という二人の作品に限ったことではない。ちなみにいえば、発足から五年目にあたる第九回から今日までに、集団以外の七人

の作曲家に委嘱作品を求める、その大半をすでに再演している。もちろん他の演奏団体によって演奏された作品も、常に積極的にとり入れている。今回の外国公演のプログラムには、古典曲以外にそうした中からの作品もいくつか含まれている。

再演ということの意味は、ある作品の真価をとことんまでつきつめるということである。今回の四曲もそれぞれに、再演、三演のときの印象を語らずにはいられない。たとえば、「古代舞曲によるパラフレーズ」は、私にとって初演よりも再演のときにはじめてその良さのわかった曲として、忘れられない(第5回定演)。いまも思い出すのは、同じく古い時代の日本人の生活をえがいたもうひとつの作品が、まったく描写音楽の域を出でていないのと対照的に、「パラフレーズ」においては、古代人の裸の生活が、生々しく感じとれたのである。私は、従来の近世邦楽がまさにすべて描写音楽であることに不満をもっていたので、その壁がつき破られたことにうれしさを感じたのである。

すでにその演奏回数において最大と思われる「子供のための組曲」においては、再演というよりは、なぜこの曲が古典となり得たかを言うべきだと思うのだが、とにかく、初演後ただちに、学生アマチュアの手で再演されたという記録がある。むろん、現在では、全国各地の邦楽演奏グループの第一のレパートリーである。もちろん同時にこの「組曲」が集団自体についても非常に大きな意味をもったことは言うまでもない。

さて「パラフレーズ」は三木稔と集団を最初に印象づけたとのべたが、「凸」はまたその上に新しい画像を焼きつけるようにして、作曲家と集団との関係を明らかにした。まず、こうした大胆な楽器編成は、まさに集団なればこそものである。日ならずして、若い箏曲家のグループがこれに挑んだのは、ともかくうれしいことであったが、これが、集団でこそという最大の理由は、この合奏では個々のメンバーが同時にソリストとしても扱われるというユニークさをもっているからであり、一時的な編成のアンサンブルではそれはたいへんむずかしいことだからである。

つまり、集団は「子供のための組曲」で邦楽器アンサンブルの基礎固めをし、「人形風土記」「パラフレーズ」でその中味の充実をはかり、「凸」

において再び、アンサンブルを構成する個々の演奏家の個性を問い合わせ直し、新しいアンサンブルの質を追求しつつあると思うのである。

再演に対する集団の積極性について、もうひとつの事実をしておきたいのだが、「子供のための組曲」が指揮者なしで演奏されたことがある(第10回定期演奏会)。その後第15回の長沢勝俊作品のタベでは、山田一雄指揮で演奏され、これも興味深かったが、私には、それとは別の意味で、指揮者なしの演奏が忘れられない。あの演奏の、ことに終曲に向うあたりの間合いに、私は、まさに日本のリズム感、日本のダイナミズムといったものを垣間見た気がするのである。演奏者たち自身にそれはどういう意味をもったのであろうか。おそらくその評価は賛否なかばしたのであろうけれど、いつか再び、指揮者の統率をはなれて、自由な個性と個性のぶつかり合いの中から生まれる、民族的個性をぜひ味わいたいと私は思っている。

考えてみれば、邦楽器はもちろん、洋楽界にも、作曲家をそのメンバーにもつ演奏集団はなかった。演奏家で、作曲家に作品を求める積極性をもつ人はようやく、出始めたばかりである。作曲家の書く作品の大半は、いまだに何らかの形で作曲家自身がつくりだした機会に演奏されるだけである。「集団」が強いのは、単に作曲家と演奏家が集まっているということではなく、これが運動体として動いているということなのである。

しかし、もう一步その真の強みを發揮するためには、これからは、演奏家の積極性が物を言うのではないだろうか。運動の初期には、ここに集まつた演奏家たちでさえも、邦楽の演奏における主従の師弟関係をすぐにはすて切れなかつたという。今では語り草であろうが、しかし、メンバーの一人一人が、演奏における自発性、創造性を發揮し切っているかといえば、それにはまだ残された余地があるよう思う。

ある演奏家、ある演奏集団の個性は、具体的には自国の作品を演奏することによってつくられていく、と私は思っている。そうしたまたとない機会に恵まれている集団のメンバーが、そのことをいかに有利に展開するか。今回の外国公演も、それへの着実な一步として確かめられ、踏み出されるならばうれしいと思う。

メッセージ

荒木宏明

(声楽・指揮)

「日本人とは」のブームが、日本の起源に始まり万葉の「見る」から古今集の「思う」そして禅思想への過程、現在の日本人の意識まで研究対象になっている昨今。日本音楽集団の渡欧が日本人を認識させる機のようなもの、即ちわれわれの祖先の血と明治百年で学んだ欧米の文化を現代感覚としての音表現、その日本の音表現ができる日本音楽集団こそ唯一の日本代表音楽集団であると思う。日本人であることの意識と渡欧の意義の使命と成功を確信して居ります。

井阪紘

(日本ピクター洋楽部)

日本の演奏家が海外でコンサートをもつ時私はいつも「日本でやる時と同じことをやれば良いのさ」と言うことにしていて。ましてや日本音楽集団がヨーロッパでコンサートをするとなれば、なおさらのことであろう。自分たちの音楽が誤解されないだろうか等と変に臆することなく、自信をもって自分たちの音楽をぶっつける——自分自身の言葉で音楽を語る。それ以外に方法があるでしょうか。日本音楽集団のこのコンサート・ツアーが成功することを信じています。元気で!

井上英二

(日本コロムビア学芸部)

日本音楽界に新しい音楽の価値体系を示し、確実なステップアップをしてこられた「集団」の皆

さんにとって、この渡欧演奏旅行をこれからの「集団」の更に新しい発展の踏み台としていただきたいと思います。

作品も演奏も『心』のある本ものであれば、万人の心をゆさぶるものと確信しています。祈、健闘!

長田暁二

(キングレコード制作部教養課)

TVや演奏会で、世界各国のあらゆるジャンルの芸術・芸能が見聞できて受入れ専門の国、日本。その日本で、民族楽器で伝統芸術から創作物まで、意欲的な企画と演奏で我々を驚かしている日本音楽集団の渡欧演奏会の成果を期待している。日本楽器のアンサンブルの良さ、独奏のユニークさは彼等をただ驚かすだけでなく、邦楽と洋楽を水と油に考えている人々に、それが同レベルの音楽であることを海外から知らせてくるでしょう。その時受入れ専門の日本で、それが定説となるでしょう。

北原篁山

(尺八)

邦楽4人の会の欧州公演に示された、各地の日本音楽に対する予想以上の理解と好評をおもうとき、4人の会とはまた異なった印象をもつ集団の欧洲公演は必ずや大成功と信じる。いまや日本音楽は固有の民族音楽の域を脱し、世界的普遍性を帯びたものであることを、われわれは力を合わせて示し、さらに大きく世界に飛躍のときである。定評ある集団の名演により、素晴らしい欧洲公演が行われることを心から祈り、期待する。

黒川昌満
(RCAレコード)

かれこれ三年ほど前、相沢昭八郎さんからおききました『集団』の活躍ぶり——日本の伝統楽器を多彩に駆使して、西洋手法の音楽を見事に演奏していく……。このときが『集団』と私たちRCAとの最初の出会いで、以来、いくつかのレコード録音にお付合いいただきました。今回のヨーロッパ演奏旅行のご成功を心からお祈りするとともに、私たちも微力ながら、この『新しい音楽の世界』をレコードを通じて、積極的に海外へ紹介して参りたいと考えております。

小泉文夫
(民族音楽学)

西洋音楽が私たちにとって貴重な精神の泉であるのと同じように、東洋音楽もまたヨーロッパ人にとって、かけがえのない宝であることを、古典や現代作品を通じて、彼等に感じてもらえるように、私は期待しています。

残念ながら、国内演奏会のとき私は、ヤップ島に行って、太平洋の島の人たちの歌をきいていますので、出席できませんが、御成功祈ります。

佐々木光
(音楽旬報)

何ごとにせよ先鞭をつける仕事というものは大変なものです、今まで日本音楽集団のツワモノが犠牲をかえりみず創りだした大きな結実が、ひとまわり広い場所で評価されようとしているの

は何よりも嬉しいことです。この上は、新しい日本の伝統音楽の現代の一ページにさまざまな経験と教訓を積み重ね、糧として生かし、西欧中心主義的な音楽を『止揚』して下さるよう切望し、今度の渡欧の収穫を楽しみにしています。

清水脩
(作曲)

「不思議な国の不思議な音楽」。多分ヨーロッパ人の99%以上は、日本の音楽をそのように感じるのではないだろうか。世界に名だたる演奏家(もちろん西洋音楽の)は、これまで何人かが出た。が、いってみればこれは外国語を母国語と同じ位にしゃべれる人のようなものである。しかし諸子はヨーロッパの人たちにもわかる思想感情を母国語で「しゃべって」こようというのである。「不思議な」と思わせるだけに終らぬように、かれらの心に杭を打ちこんでほしい。

鈴木一郎
(国際文化振興会)

はじめての日本の楽器のオーケストラのすさまじさに、ヨーロッパ人は腰を抜かして驚くことでしょう。必ず物凄い反響がかえって来ることを信じております。

集団はアンセルメをはじめとして、海外にも応援者が何人かいました。英國の皇太子に、英國の「皇太子讃歌」やバッハを日本楽器だけで演奏して、びっくりさせたのも集団でした。

きっと、今度ヨーロッパ人が集団にたまげると改めて日本人も肝をつぶす事でしょう。

メッセージ

富 横 康

(評論)

ヨーロッパの音楽家達は、日本の伝統音楽の存在を知っている。そして日本の作曲家達が、伝統音楽には手をつけないで、そのままの形に放置しておく態度には理解できないのだ。どちらの態度が正しいか。それは当事者が邦楽に美感をもつか持たないかによって二分される。日本音楽集団は、もちろん西欧人の趣向に応じる為に作られたものではない。しかしその存在価値がヨーロッパで批判される時期がいよいよやってきた。来たるべき時が来たという感じである。

中島 雅楽之都

(生田流箏曲)

日本音楽集団が、日頃の真剣な精進と、集団の精神的な団結が実を結び所期の目的念願である欧洲への演奏旅行が近日実現されることは誠に、お目出たい次第で、心より御祝辞を申し上げます。

日本独特の楽器による編成、団員の方々の親睦、毎週正派道場で練習されているのをかげながら見聞している私は諸手を挙げて万才を絶叫したい。すべては団員の方々の結合した熱意が成功の原素です。日本音楽集団 万才。万才。万万才。

中藤 泰雄

(日本電波ニュース社)

日本音楽集団が、ヨーロッパ各国の機関の協力を得て、今回ヨーロッパ公演旅行をすることになったこと、そしてそれに私たちがお手伝いしたこ

とを大変うれしく思います。

というのは、私たちは、日本音楽集団の公演が、古いすぐれた音楽の伝統をもつヨーロッパの国々で、ヨーロッパと日本の音楽のはんとうのふれあいと共に多くの人に感じさせてくれると信じているからです。私たちを助けて下さった多くの友人たちに、心からの感謝をこめて！

中能島 欣一

(山田流箏曲)

日本音楽集団が愈々渡欧されます。いよいよと言うのは、当然の期待が実現するからですが、この大きな集団が広い意味での日本音楽を紹介されるところに、特別の意義があります。

プログラムも至極妥当で、その演奏技術によって各地の聴衆を魅了することでしょう。ただ、こうした大旅行は「裏方的」な苦労が並大抵ではなく、それ等を乗り越えて成功されることを祈ります。

仲俣申喜男

(作曲)

伝統楽器の現代的発展には様々な形が存在し得るでしょう。日本音楽集団に私が共感するのは、その既往の感覚、制約にとらわれない自由で積極的な変革、創造の若々しいエネルギーです。

世界中のいろいろな国の民俗音楽を聴いてきたヨーロッパの人達にとっても、音楽集団の音楽は極めてユニークなものとして響くでしょう。そして単に Local なものの魅力や興味にとどまらず、今日に生きている者としての Contemporaly な

共感を呼びおこさずにはおかないのでしょう。そうしたじかの反応の中で、早急な結論付けではなしに、更に意欲的な試み、行動を一層大胆に推しすすめる大きな自信をもって帰って来て下さい。御成功を祈ります。

長 尾 一 雄
(評 論)

日本音楽集団は、近代の理智を通過した音楽家たちの集まりである。その使用する楽器群は、むしろ近代の理智と背馳するような経過をたどって発達して来た。そこに生じるディレンマこそ、近代→現代の日本文化の、きっさいのディレンマそのものであると言えよう。しかもオーケストラに近い機能を持ったこの集団は、それを大規模に響き立てるだろう。完成された音楽ではなく、苦闘の記録として世界に叫んで来てほしい。

長 広 比 登 志
(NHK芸能局)

敬愛する同志諸兄よ。西欧の舞台からかれらの眼をよく観てきてほしい。西欧人に、日本の「古今」の音をたっぷり聞かせてきてほしい。折あらば、かれらの日本への憧憬と関心を助長・増長させてほしい。もうこれから、われわれが西欧から学びとるものは多くない。旭日昇るがごとき発展ぶりの同志諸兄が、西欧の舞台で、最初の音を発する時の緊張と興奮にみちた感激を、大事にもち帰ってほしい。

丹 羽 正 明
(評 論)

真の文化交流とは、お互のエキゾティシズムにおもねることでもなければ、安易に足して2で割る折衷方式によって作り出されるものではありません。それは、異質の伝統を背負った文化の、その異質である本当の核心をぶつけ合うことによってしか成立し得ないものと思います。古典にせよ現代にせよ、本物を、粉飾することなく、自信をもってぶつけて、まだまだ日本をよく知らないヨーロッパとの眞の交流の実を上げることを祈ります。

牧 野 由 多 可
(作 曲)

私等は自分の国の音楽を大切にするとともにそれに現代の生命をあたえる仕事をしなければなりません。音楽集団の存在が私等をよろこばせるのは、そうした活動を最も力強く、おし進めている団体の一つだからです。その日本音楽集団が、初めて海外演奏旅行に行かれるることは近頃にない快事です。こうしたことが、現代日本の音楽のよさ、又日本楽器の優秀性を広く認識させることにつながれば大成功とおもいます。又邦楽は、とかく現代に息づいていない古典的なものとの先入感を打ちやぶる為にも、古典から現代に至る広いレパートリーを持つ音楽集団の海外行きは意義のあることです。どうか大きな問題提起をしてきて下さい。

渡欧公演によせて

メッセージ

町田 佳聲
(民俗音楽)

日本音楽集団の最近における活躍振りには誠に眼をみはるものがありますが、今秋は長い間の念願が実現することになり、東西ヨーロッパ7ヶ国への演奏旅行に出発されるそうで、誠にお目度う存じます。同じ欧州といっても7ヶ国といえばそれぞれに国情も違い、受け取り方も区々まちまちかも知れませんが、どうか皆さん健康に気を付けて、仲よく充分の成果を上げるよう頑張って下さい。

松本 太郎
(評論)

貴集団が創立9年目を迎え、一つの階段の頂点に達した今日、海外に声価を問はれるのは極めて有意義であると思います。今までの諸訪欧邦楽人に対する新聞批評家の関心は、主として音色とその駆使法に対する物珍しさえ向けられている様ですが、貴集団の場合より多彩な音色と曲の構成の基礎が彼等と共通のものであることとが、新しい反応を引起し、それが貴団の未来にプラスとなることが信じられます。御成功を祈りつつ。

三谷 礼二
(演出家)

ベンジャミン・プリッテンの片腕であり、イングリッシュ・オペラ・グループの総師である演出家コーリン・グレアムが先般来日したとき、真先に私にたずねて「ミキは?」唐突にミキといわれ

て、三木稔さんと日本音楽集団の話だとわかるまでに、かなりのブロークン問答があったのだが、その真剣な眼差しは、欧州における認識について、何よりも雄弁だったのだ。旅の成功を祈る、など愚か。むしろ、その姿が正しく紹介される機会を誇りたい。

村岡 実
(尺八)

ヨーロッパ演奏旅行、おめでとうございます。当然のこととはいって、心からお祝い申し上げます。9年前の結成当時を想い起こし、感慨ひとしおです。御成功を信じております。大喝采を受けるさまが、眼に浮かぶようです。日本のワビ、サビ、各楽器の禅的妙音が、ヨーロッパの人々の心に、静かに、力強く、沁み透ってゆくに違いありません。

どうぞ、健康に注意して、思いきり、吹き鳴らし、弾き奏で、打ち響かせてきてください。

村松道弥
(週刊音楽新聞)

伝統を正しく継承しながら、新しい音楽の創造を日本の民族楽器の合奏によって、発表会ごとに我々の期待に答えてくれた。作品、演奏に、最早確固たる国内の評価の定まった今日、いよいよヨーロッパへの演奏旅行が実現する事は当然の事ながら、喜ばしい事である。今迄の業績を顧るとき、必ずや海外においても大いなる成果を掲げるものと期待します。団員諸君元気で行っていらっしゃい。

柳沢新治

(NHK芸能局)

皆さまの長い間の念願であった国際的な舞台での演奏が実現すること、心からお喜び申しあげます。ベルリンでの演奏の録音テープが入手できる見込みなので、放送でご紹介できればとたのしみにしています。

私どもの放送は「現代の日本音楽」から「現代の音楽」へ名をかえました。皆さまの演奏も今回の経験の上に、更に飛躍されることを期待しています。お元気で。

結城亨

(日本コロムビア洋楽部)

音楽集団は日本唯一の邦楽器のオーケストラです。古典も現代も手がけ、9年もの積重ねを続け、多くの定期演奏会、レコード録音、放送録音等の実績を持っています。その集団が初の大掛かりな渡欧公演をするのです。そう思っただけでもう我々に今回の成果について大きな期待を感じさせます。しかし恐らく我々以上に非常に大きい期待を抱いて待っているのは公演先の人々でしょう。我々が心配するのは唯一つ、皆さんの身体のコンディションだけです。



(以上敬称を略し、五十音順に掲載させて頂きました)

私達集団の渡欧公演に対して多くのかたがたより心のこもった励ましのお言葉を頂き、集団一同深く感謝しております。プログラムの紙面をかりて掲載させて頂きました。

ヨーロッパ演奏旅行をお祝いします。

新宿南口

日本ではじめての人形劇専門劇場

パーク人形劇場

東京都渋谷区代々木2-12-3

TEL 379-0234

ヨーロッパ公演について



公演日程

- 9月14日 22.00 羽田発（サベナ航空 S N 356便）
15日 13.15 ブラッセル着
17日 ベルギー・ゲント <フランドル音楽祭>
18日 ベルギー・ブラッセル ベルギー・テレビ（B R T）録画
21日 西ドイツ・ケルン日本文化会館 コンサート
22日 西ドイツ・ケルン日本文化会館 コンサート
27日 西ベルリン <ベルリン音楽祭（芸術週間）>
29日 チェコ・ブルノ <ブルノ国際（現代）音楽祭>
30日 チェコ・プラハ コンサート及びテレビ
10月 2日 オーストリア・ウィーン オーストリア・テレビ（O R F）公開録画
3日 西ドイツ・ミュンヘン バイエルン放送録音
〃 西ドイツ・ミュンヘン コンサート
5日 ユーゴ・ザグレブ コンサート
6日 ユーゴ・リュブリアナ コンサート
9日 ユーゴ・ベオグラード コンサート <ベオグラード祭>
13日 ブルガリア・ソフィア コンサート
14日 ブルガリア コンサート
16日 ブリガリア コンサート
17日 ブリガリア コンサート
19日 ルーマニア・ブカレスト コンサート
20日 ルーマニア コンサート
22日 16.45 アテネ発（サベナ航空 S N 351便）
23日 19.40 羽田帰着

*ケルン及び東欧諸国でのテレビ・ラジオ放送については、ここに記載してありませんが、現在なお交渉中です。

演 奏 曲 目

■Aプロ

- 1) 日本の伝統音楽より
 - 江戸囃子より「屋台」（篠笛と打楽器）
 - 琵琶古曲の手法より（筑前と薩摩琵琶）
 - 六段の調（箏）
 - 鹿の遠音（尺八）
 - 幕間三重（三味線）
- 2) 古代舞曲によるパラフレーズ／三木 稔
- 3) 天如／三木稔……二十絃箏ソロ：野坂恵子
- 4) 子供のための組曲／長沢勝俊

■Bプロ

- 1) (a)しがらみ第二／八村義夫
- (b)二面の箏のための音楽／入野義朗

(c) 美濃人に／仲俣申喜男

- 2) 組曲「人形風土記」／長沢勝俊
- 3) 詩曲／長沢勝俊……尺八ソロ：宮田耕八朗
- 4) 凸——三群の三曲と日本太鼓のための協奏曲／三木 稔

■適宜加えられる曲目

- 箏四重奏曲／長沢勝俊
- ソネット、「四群のための形象」より擣，曲／三木 稔
- 風／牧野由多可……十七絃ソロ：宮本幸子
- 幽／H. J. コルロイター（ミュンヘンのみ）



今回のヨーロッパ公演に関しましては、「ごあいさつ」で読んで頂いたように、初めての試みのためもあって長い準備期間が必要としました。1974年にはまとめて面倒をみたいという高名なヨーロッパのマネージャーがいて、次回は楽になると思いますが、とりあえず今年はヨーロッパ内のマネージメントというか交渉先が細分されていて、綜合プロデュースにあたった私（三木）はその連絡調整に悩まされ通しました。そのような中で、多くの方々が親身の協力を下さいましたことに、この文面をかりてお礼を申し述べたいと思います。

特に、ベルギー関係を成約して下さり、集団の団友として大いに期待していた石田早苗さんが、美人薄命といいますか、昨年事故でお亡くなりにならったことは、今ここまで来て何とも表現のしようのない感慨を覚えます。どうか安らかに私たちのフランドルでの演奏会を見守っていて下さい。

国際的なピアニストとして活躍しておられる室井摩耶子先生には本当に助けられました。数々の御経験と、並優れた国際感覚で、私のような素人プロデューサーを督促激励して下さり、中でもベルリンとザグレブは先生の力で陽の目を見たようなものです。

ウィーンはレコードを送りましたら、一発で、いい条件で話がまとまり、二年も前から日程まで決まって、スケジュール調整の核となった場所ですが、今年になってから実務はウィーン在住のソプラノ歌手で旧友の佐藤喜美子さんがとりしきってくれています。ありがたいことです。

たまたま、日本の女性方に話がかたりましたが、日本通の外人も随分奔走して下さいました。ミュンヘンはバイエルン州文化庁と先方の現代音楽協会の共催ですが、東京ゲーテ・インスティテュートのコルロイター所長の橋渡しによるものでし、実現を見ませんでしたが、集団の大ファンであるシャールシュミット御夫妻がフランクフルト近辺で本当によく動いて下さいました。ドイツの一部が成約できなかったのは、オリンピックの影響で、その関係者はみんな次回を確約してくれています。

民謡とか、ポピュラーもののアレンジという妥

協を一切せずに曲目が決ましたが、いうなればほとんど日本の現代音楽だけで海外公演をするなんて、創造の立場にいる者にとって夢のような現実といえましょう。あとはもう、もの珍しさから的好評でなく、作品の力、演奏の力によってヨーロッパの人たちを感動させられたらと、実はひそかに願っているのです。

再び、御協力へのお礼。「ごあいさつ」で触れたが外務省、文化庁、そして国際文化振興会の関係のみなさん、東欧関係のマネージに加わって下さった日本電波ニュース事業部の方々、それから、この渡欧記念演奏会についての後援をして下さった朝日新聞社にも深く感謝する次第です。

長い間にはおめでたいこともあります。私たちの演奏会に自ら進んで度々お見えになる安達健二氏が、文化庁長官になられました。強力な理解者ですから、運動にとっても、こんなに心強いことはありません。

（三木記）

渡欧公演にあたっての演奏者の服装は、私達にとって長い間の懸案でした。基本的にはステージの前半は和服、後半は洋服ときましたもの、洋服の材質及びデザイン等については全く素人の私達にとって、それは手にあまるものでした。

幸い長年記録映画でのおつきあいのある鮫島亀禄氏の御尽力により東洋紡を紹介して頂き、女性のコスチュームを作ることができました。また筆の立奏台については集団での長年の研究をもとにして、具体的な製作にあたっては彫刻家の野口鎮氏のお力をかりました。

渡欧公演の記録映画製作の話もあり、映画監督の瀬藤祝氏がいろいろと奔走して下さいました。今回は残念ながら実現をみませんでしたが、次の機会を楽しみにしています。

御協力頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

（長沢記）

女性コスチュームは東洋紡の提供により

「シノン」を使用しております。

「シノン」は、絹を求めて創造された優雅で華麗な蛋白性せんないです。

デザインは今村明僕氏によるものです。

おしらせ

★昨年にひき続き計画された第2回夏期合奏研究会は、北軽井沢ミュージックホールにて約100人のかたがたが参加され盛大におこなわれました。来年も新しいプランのうえに、より充実した研究会をおこなう予定です。

★第18回定期演奏会は1973年1月24日、都市センター・ホールの予定です。

★現代邦楽運動の広がりのため、集団に新らしい血を導入するため、4月から初の研究団員が入団し頑張っています。来春3月には研究団員による新人演奏会をおこなう予定です。

★集団及び団員が主として関与し、現在発売されているもの、及び近く発売予定のレコードは次のとおりです。

●現代日本の音楽=3

コロムビアOS-10052-J

●三木稔の音楽

コロムビアJX-21-4

●日本美の響き

コロムビアYS-10097

●日本音楽集団による日本の民謡

キングSKK-673

●日本の楽器

RCAビクターJRZ-2520~21

●人形風土記／子供のための組曲

RCAビクターJRZ-2523

●日本の楽器入門

コロムビアELS-3342-3

●古典↔現代／日本音楽集団の世界

(註：これは日本楽器による管絃楽入門と副題され、集団演奏の各楽器古典8曲と三木稔作曲「凸」の新録音が裏表に入ります) コロムビアOS-10127

●佐保の曲・竜田の曲／野坂恵子箏リサイタル

ビクターVX-109

●日本音楽集団とオーディオ・ラボラトリーの

共同企画で、子供と和楽器を結ぶ「阿波の子たぬき譚」「三つの阿波のわらべ歌」(三木)「子供の四季」(長沢)の三作品の四チャネル録音を八王寺市民会館でいたしました。合唱は実力日本一といわれる徳島少年少女合唱団です。

★集団関係で演奏した曲目の楽譜、本式の印刷ではありませんがコピーを用意できているものがありますので事務所へ問い合わせていただければ実費でおわけいたします。

●スコア

長沢勝俊作品 人形風土記、子供のための組曲
二つの舞曲、子供の四季、箏四重奏曲、崩春、
絵馬

三木稔作品 古代舞曲によるパラフレーズ、凸、
三つの阿波のわらべ歌、阿波子たぬき譚、雅
びのうた

佐藤敏直作品 ディベルティメント

若松正司作品 民謡群想

松村禎三作品 詩曲

仲俣申喜男作品 三本の尺八のためのスペース
五本の尺八のための音樂

安達元彦作品 邦楽器のためのトッカータ

●パート譜

長沢作品 人形風土記、子供のための組曲、箏
四重奏曲、崩春、絵馬、詩曲

三木作品 古代舞曲によるパラフレーズ、孤響

★集団結成以来のメンバーであった横山勝也(尺八)はこのたび一身上の都合により退団しました。今後は団外にあって協力してくれることになっています。

今回の演奏会の宣伝美術およびプログラム製作にあたっては、集団のよき理解者である戸井昌造氏の絶大な御協力を頂きました。心から御礼申し上げます。

日本音楽集団団員

＜団員＞

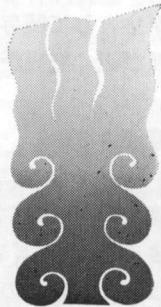
- 望月 太八 (篠笛・能管)
宮田耕八朗 (尺八・横笛各種)
坂田 宏聰 (尺八)
杉浦 弘和 (三絃)
山田美喜子 (琵琶)
半田 綾子 (琵琶)
坂井とし子 (箏・三絃)
白根きぬ子 (箏)
野坂 恵子 (箏・二十絃箏・三絃)
宮本 幸子 (十七絃)
田村 拓男 (指揮・打楽器)
清水 義矩 (マネージャー・打楽器)
尾崎 太一 (打楽器)
藤舎 成敏 (打楽器)
高橋 明邦 (打楽器)
中沢 啓光 (打楽器)
長沢 勝俊 (作曲・代表)
三木 稔 (作曲)

＜研究団員＞

- 鳳声 晴由 (篠笛・能管)
三橋 保源 (尺八)
石井 寛道 (尺八)
野口美恵子 (三絃)
田原 順子 (琵琶)
吉村 七重 (箏)
池上 早苗 (箏)
渡辺 泰子 (箏)
菊地麻美子 (十七絃)
霜島 素子 (理論)

＜団友＞

- 芝 祐靖・増田睦実・砂崎知子・芹沢英雄
鞍掛昭二・川崎祥悦・佐藤敏直・元橋康男
広瀬量平・田中利光・仲俣申喜男



日本音楽集団渡欧記念演奏会スタッフ

- 企画 日本音楽集団委員会（担当 長沢勝俊）
マネージメント 清水義矩
宣伝美術 戸井昌造
各種印刷 明美印刷
事務局 渋谷区神宮前3-6-14
TEL: 402-0709 (円150)

驚異の世界をもシステム化したF-1。



NEW HORIZONS

**Canon F-1: the ultimate
in photographic systems**

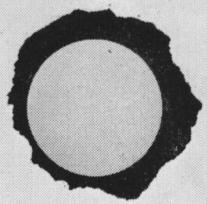
Canon
F-1

日本音楽集団——日本の伝統音楽の

全てを完璧な技巧と音樂性をもつて全世界に紹介する演奏集団の貴重なLP!

◆大好評発売中

日本の樂器



日本の樂器

箏、琵琶をはじめとする絃樂器11種、尺八、笛などの管樂器7種、太鼓、鉦などの打樂器14種。日本の伝統樂器のすべてにわたって、その音域、奏法、演奏例を詳細に解説し、合奏例もいくつかとり上げて完璧を期した内容です。

演奏は日本音楽集団と雅樂樂團会のメンバー、語り手は立川清登です。豊富な資料や写真を多数使用した解説書付。目と耳で理解して頂けるように特別企画された貴重なレコードです。学校での教材にも最適です。

■監修：三木稔／長沢勝俊

J R Z — 2 5 2 0 — 2
30 cmステレオLP 2枚組
¥4,000

人形風土記／子供のための組曲

長沢勝俊／作曲

組曲「人形風土記」
ニボボ／こけし／のろま人形／流し
びな／キジ馬／木うそ

子供のための組曲

演奏：日本音楽集団

30 cmステレオLP
¥2,000



RCA Records and Tapes

発売元：ピクター音楽産業株式会社

現代邦楽ライブラリー

日本音楽の最高峰を歩む作曲家による現代邦楽作品の数々を網羅していくライブラリーです。

三木 稔

四群のための形象

500円

箏譚詩集

300円



全音楽譜出版社

東京都新宿区東五軒町25 03-269-0121

●近刊予定——

諸井 誠——対話五題

間宮芳生——三面の箏のための音楽

四面の箏のための音楽

尺八のためのプレリュード

清瀬保二——尺八三重奏曲

日本樂器のための四重奏曲

湯山 昭——三面の箏によるカプリス

助川敏弥——邦樂器のための形象

石橋真礼生——箏のための組曲

小山清茂——和樂器のための四重奏曲第2番

和樂器のための三重奏曲

その他

「現代日本音楽シリーズ」
大好評発売中！



芸術祭奨励賞、毎日音楽賞に輝く、三善、矢代の代表作

弦楽四重奏曲 第2番(三善 晃)
弦楽四重奏曲(矢代秋雄)

辻本真理弦楽四重奏団
VX-101 30cmLP ¥2,000

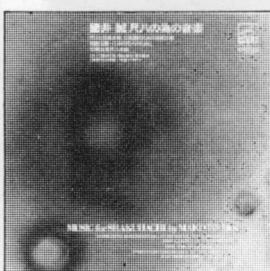


明日の音楽界をになう2大ホープの出世作を豊田耕児が快演！

ヴァイオリンとピアノ、チェロのための三重奏曲(野田暉行)

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ(篠原 真)

豊田耕児(ヴァイオリン)／ロタール・ブロダック(ピアノ)／ルドルフ・ヴァインストイマー(チェロ)
VX-105 30cmLP ¥2,000



西洋音楽と日本伝統音楽の華麗なる融合
諸井誠~尺八の為の音楽

(1)尺八と弦楽合奏、打楽器の為の協奏三章(2)対話五題～2本の尺八の為に(3)竹籠五章～尺八本曲
酒井竹保(尺八)／藤倉呂悦(小鼓)／望月太明一郎(大鼓)／横山勝也(尺八)／青本静夫(尺八)
／秋山和慶(指揮) 東京ゾリストン
VX-64 30cmLP ¥2,000



佐保の曲、竜田の曲／
野坂恵子、箏リサイタル

side-A

(1)佐保の曲

竜田の曲 (三木 稔)

(2)六段の調 (橋本検校)

side-B

(1)箏譜詩集

小さな序曲

あこがれ

冬の夜

やがて春が

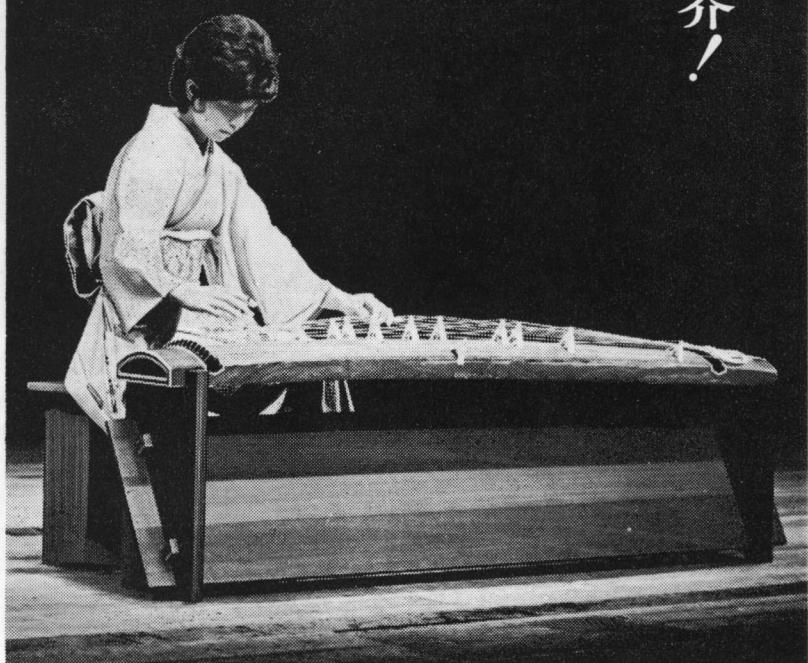
人形の子守唄

(2)みだれ <乱輪舌>

VX-109 30cmLP ¥2,000

日本の伝統楽器「箏」の新しい世界！

野坂恵子、初めてのソロ・アルバム
（9月5日発売）



東大前 小川楽器店

文京区本郷 6-24-10

TEL (811) 2235 · (814) 0510

フォルテ

みなさまの憩いの部屋

AM8:30—PM7:00 純喫茶

PM7:00—AM2:00 スナック

渋谷区神宮前 6-17-11

TEL (409) 3988

ニットの表情をこんなにやさしくしたのはシノン。



シノンのもつ蛋白性せんい特有のタッチが、こんなに美しいニットをつくりました。シルクのやさしさをそのままに、色はさらに鮮明に。ファッショニ性の高いニットです。いま、静かなブームを呼んでいます。



シノンには、高級洋装地、ネクタイ、マフラー、スカーフ、高級和装表地、裏地、帯、高級夜具地、和装小物(伊達じめ、角帯、半衿、帯あげ、帯じめ)など、製品のバラエティは豊富です。

日本音楽集団、最新レコードご案内



* 日本の伝統的楽器について手軽にわかりやすく理解できる(監修解説:三木稔、台詞:秋浜悟史、お話し:伊藤惣一)

●日本の楽器入門

■ 箏のなかま:《文様(あや)より》/《箏の音域》と《調絃》/《音色》/《唱歌》と《奏法》/《わらべ唄によせて》/《箏の合奏について》他

■ 尺八のなかま:《尺八のなかま紹介》/《尺八の音域》と《音程の作り方》他

■ 三味線のなかま:《しゃみ猫博士の冒険(前半)》/《胡弓》と《三味線のなかまの比較》/《三味線の種類》他

■ 太鼓のなかま:《四拍子の紹介》と《唱歌》/《雅楽の打楽器》他

☆ 日本音楽集団 他

► ELS・3342~3(2枚組) 20頁詳細楽譜及び解説写真付 ¥3,000



* 各楽器の特質と古典曲、現代曲の対比をこの1枚で!!

古典↔現代／日本音楽集団の世界

邦楽器による管弦楽入門

屋台～江戸囃子(打楽器、能管)/六段の調(琴)/うぐいす(筑前びわ)

くずれ(薩摩びわ)/鹿の遠音(尺八)/送り三重(太棹三味線)

凸—三群の三曲と日本太鼓のための協奏曲(三木稔)他

☆ 日本音楽集団 監修:三木稔

► OS・10127 ¥2,000(英文付)



* 昭和45年度芸術祭大賞に輝く!!

日本音楽集団による 三木稔の音楽

序の曲/天如/ソネット/凸/はばたきの歌/孤譚/箏譚詩集
四群のための形象/古代舞曲によるパラフレーズ/くるだんじ
☆ 日本音楽集団 秋山和慶指揮

► J X・21~4(4枚組)マスター・ソニックNDカッティング別冊解説書
(曲目、楽器)英文付、全10曲完全総譜付 ¥7,200

* 現代日本の音楽(3)

三木稔:古代舞曲によるパラフレーズ

清瀬保二:尺八三重奏曲

☆ 横山千秋指揮 日本音楽集団

► OS・10052 ¥2,000



日本美の響き/和楽器による日本旋律集

本曾節/赤とんぼ/通りやんせ/花嫁人形/平城山
荒城の月/待ちぼうけ/叱られて/さくらさくら/花 他

☆ 日本音楽集団 ► YS-10097 ¥1,900

日本美の響き/和楽器による日本旋律集

第2集

からたちの花/黒田節/八木節/知床旅情 他

☆ 日本音楽集団 ► YS-10120 ¥1,900



コロムビアレコード